

# 情報通信審議会 電気通信事業政策部会（第16回）議事録

第1 日時 平成23年5月25日（水） 14時00分～14時20分

於、総務省8階第1特別会議室

第2 出席委員（敬称略）

山内 弘隆（部会長）、相田 仁（部会長代理）、井手 秀樹、齋藤 聖美、  
新町 敏行、高橋 伸子（以上6名）

第3 出席した関係職員

(1) 総合通信基盤局

桜井 俊（総合通信基盤局長）、原口 亮介（電気通信事業部長）、  
前川 正文（総合通信基盤局総務課長）、古市 裕久（事業政策課長）、  
布施田 英生（番号企画室長）

(2) 事務局

白川 政憲（情報通信国際戦略局情報通信政策課管理室長）

第4 議題

携帯電話の電話番号数の拡大に向けた電気通信番号に係る制度等の在り方

【平成23年5月25日付け 諮問第1215号】

## 開 会

○山内部会長　それではただいまから、第16回の情報通信審議会、電気通信事業政策部会を開催いたします。

本日は委員及び臨時委員7名中、今のところ5名がご出席ということで、高橋委員がおくれてご到着と聞いております。いずれにいたしましても定数を満たしております。会議は公開で行います。

それではお手元の議事次第に従いまして、議事を進めてまいりたいと思います。本日の議題は1件でございます。

## 議 題

携帯電話の電話番号数の拡大に向けた電気通信番号に係る制度等の在り方【平成23年5月25日付け 諮問第1215号】

○山内部会長　諮問第1215号、携帯電話の電話番号数の拡大に向けた電気通信番号に係る制度等の在り方について、審議いたします。

本件につきましては、情報通信審議会議事規則、第11条第8項の規定に基づき、資料16-1-1のとおり、当部会に付託されております。

それでは、総務省からこの説明をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○布施田番号企画室長　総務省の布施田でございます。よろしく願いいたします。

それではお手元の資料の16-1-2をごらんください。こちらが諮問書でございます。本文を読み上げいたします。

携帯電話のネットワークは、いつでもどこでも利用可能なネットワークとして国民に広く認識されており、平成23年3月末時点での携帯電話サービス契約数は約1億2,000万件という状況である。加えて、近年、携帯電話の通信モジュールについては、小型化・低廉化を背景に、電子書籍、ゲーム端末、カーナビゲーション、子供の防犯ブザー等に組み込まれることにより、携帯電話のネットワークを利用した機器間の通信(Machine to Machine)の需要が広がりつつある。

今後、携帯電話サービスの契約数が年々約500万件増加する状況が続き、かつ、従来の携帯電話の電話番号の指定方法を維持すると、平成26年2月ごろには、総務省から電気通信事業者に指定する携帯電話の電話番号が不足すると想定される。

このため、今後、携帯電話に関する通信需要の増加に適切に対応し、利用者ニーズにこたえるためには、現在、携帯電話の電話番号として使用している090及び080番号帯に加えて、新たに070番号帯の導入を検討するなど、携帯電話の電話番号数の拡大を検討するとともに、携帯電話とPHSとの番号ポータビリティ導入など利用者利便の向上等の観点からの検討が必要である。

また、あわせて、電気通信番号規則に規定する第一種指定電気通信設備との網間信号接続に関する電気通信番号の指定要件について、今後さらなるサービス形態の多様化や利用料金の低廉化を可能とし、利用者利便の向上に資するため、当該指定要件の在り方について検討する必要がある。

以上より、以下の事項について、貴審議会に諮問するものである。

- (1) 携帯電話の電話番号数の拡大に向けた電気通信番号に係る制度の在り方
- (2) 電気通信番号の指定要件の在り方

以上でございます。

続きまして、資料1-3をごらんください。こちらで、諮問の背景の説明をしたいと思います。

めくっていただきまして2ページ目でございますが、まず携帯電話サービスの契約数の増加でございます。各事業者の契約数の増加を図で示してございます。今年3月末の時点で、約1億2,000万件の契約者数がございます。ここ数年は、年間約500万件の割合で増加しているところでございます。

次のページでございますが、我が国の携帯電話の電話番号の変遷でございます。携帯電話は昭和54年に導入されまして、そのときは030の番号を使っておりました。また、このときは、かける相手がどの都道府県にいるかを予測して、電話番号をかけておりました。昭和63年になりまして、かける相手が、都道府県ではなくて、160キロメートルよりも遠くにいるか、近くにいるかで、電話番号を使い分けることとなりました。平成8年になりまして、かける相手が日本中どこにいても、1つの電話番号でかけられる状態になったところでございます。その後、利用の伸びとともに番号も追加していきました。平成11年に携帯電話は090に続く8けたに統一いたしました。PHS

は同じときに、070に続く8けたに統一したところがございます。その後、平成14年に携帯電話については080を新たに追加をして、平成18年に携帯電話の番号ポータビリティサービスも導入したところがございます。

1ページめくっていただきまして、4ページでございますが、0A0番号帯。Aは1から9の数字でございます。0A0の番号の利用状況を示してございます。010が国際電話、020がポケベル、030、040は現在使っておりませんで、050はIP電話、060が固定電話と携帯電話を融合したFMCサービスというものにっております。070はPHS、080、090は携帯電話に使っているという状況でございます。

続きまして5ページ目でございますが、こちらは携帯電話の電話番号を変更せずに、同じ番号のまま携帯電話事業者を変えるという、携帯電話の番号ポータビリティの利用状況でございます。この制度は、平成18年10月に導入されまして、それ以降、ほぼ一定の割合で利用状況が増えてきておりまして、今年3月末の時点で1,200万件の契約が実際に事業者を変更している。携帯電話の全契約数が約1億2,000万ございますので、約10%の方はこの制度を使って事業者を変更したことがあるという状況でございます。

続きまして6ページ目でございますが、携帯電話を使う新たな需要といたしまして、M2M (Machine to Machine) サービスがございます。下側の絵の左側をごらんいただきたいのですが、このM2Mといいますのは、例えば車ですとか自動販売機などの機械が、携帯電話回線を使って特にデータ伝送のやりとりなどをするサービスでございます。右側に携帯電話の通信モジュールの価格の推移と書いてございますが、その中ほどに通信モジュールの例示の写真をつけてございます。約3.5センチ、3.6センチぐらいの大きさのモジュールがございまして、ここの中に電話番号ですとか、無線の機能がついておりまして、これが機械につくことで、その機械が携帯電話回線を使ってデータのやりとりができるというものでございます。

これは電気通信事業者が販売しているものでございまして、3年前、2008年のときには約1個2万5,000円ぐらいで販売されていたものでございますが、昨年、2010年では約1個1万円ぐらいまで安くなってきている。それに伴いまして、契約数も伸びておりまして、昨年、2010年、単年度で約141万個が契約されている。今年3月末の時点で、累計でございますが約470万個が既に契約されているところでござ

ざいます。今後とも値段が安くなる方向でございまして、このM2Mサービスの需要も増えてくると想定するところでございまして。

次のページをごらんください。7ページでございまして、そのM2Mサービスが利用される可能性がある、需要母体といたしまして、いくつか例示をさせていただいております。電子書籍ですとか、デジタルフォトフレームなどなどに、今後とも使われていくと想定しております。

続いて、めくっていただきまして8ページでございまして、こちらは総務省から各電気通信事業者指定可能な電話番号数の推移をあらわしてございまして、現在、携帯電話番号は080、090が割り当てられておりますので、全体で約1億8,000万個の番号の容量がございまして、今年3月末の時点で、既に1億6,040万個の番号は各事業者に指定してございまして、残り約1,960万番号となっております。現在の需要の伸びが続きますと、平成26年2月ごろには番号が不足することが想定されております。また、先ほどご紹介いたしましたM2Mサービスの需要が伸びると、さらにこの不足する時期は早くなることが考えられます。

続きまして9ページ目でございます。こちらは第一種指定電気通信設備との網間信号接続に関する指定要件でございます。下の絵の左側でございますが、現状、電気通信番号の指定を受ける事業者、つまり、電話番号を使う事業者は、下側にあります第一種指定電気通信設備、つまり、NTTの設備と網間信号接続をしていることが要件化されてございまして、直接つながっている状態でございます。それを右側のように、間に1つの事業者が入って、間接に接続することが可能となれば、電気通信番号の指定を受ける事業者のコストの負担も軽減できることが期待されているところでございまして。

以上が諮問の背景でございまして、この諮問に基づきましてご検討いただきたい項目といたしまして、次の10ページに検討項目(案)を書かせていただいております。大きく3つでございまして、1つが携帯電話の電話番号の番号数を拡大することに関しまして、電話番号の今後の需要の動向についてご審議いただき、現在使っておりません090-0を利用可能にすること。また090、080に続く携帯電話の番号として、070を利用することについてご審議いただきたいと考えております。2つ目がM2M、また携帯電話とPHSの番号ポータビリティに関してでございまして、特にM2Mにつきましては、人ではなく機械が番号を認識するわけですから、けたを増やして、またそれ専用の番号を設けたらどうかということについて、ご検討いただきたいと思っております。

また携帯電話とPHSの間において、番号ポータビリティを導入することについてご審議いただきたいと考えております。3つ目でございますが、電気通信番号の指定要件の在り方でございますが、先ほど申し上げましたとおりNTTとの網間信号接続につきまして、間接的に接続することにはどうかということにつきまして、ご審議いただきたいと思っております。今後の予定でございますが、ご審議いただきまして、今年度をめどに答申をいただきたいと考えております。

以上、諮問書並びに諮問の背景についての説明でございました。

○山内部会長　　どうもありがとうございました。

それでは、ただいまの説明につきまして、ご意見あるいはご質問ございましたら、ご発言願いますが、いかがでございましょうか。

どうぞ。

○井手委員　　平成26年に番号が不足するというので、こういった拡大に向けた検討は、基本的には賛成です。

1点だけ、ちょっと教えていただきたいのは、今の16-1-3の4ページを見ると、070は、もう既にPHSで使っているというところで、携帯電話の番号もこの070を使うようにする。PHSはどうするかというのは、また別の議論なのでしょうか。それ1点を教えていただきたいのと、携帯電話用の番号は、090、080、070と、こう順番におりていかななくてはいけないものかどうか。例えば、FMCサービスは060とありますけれども、ほとんどあまり使われていないサービスもありますよね。040は全く使われていない。030も全く使われていない。これで携帯電話の番号は、どういうふうにして拡大していくかというのは、何か基本的な考え方はあるのでしょうか。その点をちょっと教えていただけますか。

○布施田番号企画室長　　これまで、電気通信の新しいサービスが増えるごとに、新たに番号を追加していくということをしてきておりまして、まず、最後のご質問にあります、030、040があいていることにつきましては、今後とも新しいサービスが出てくるかもしれない、将来のサービスに備えて基本的にはあけられるところはあけておきたいという考えがございました。

あと、070でございますが、最近の考えでございますと、PHSも携帯電話も外見上は同じような大きさのもので、携帯端末による通信サービスということで、かなり似てきていることもございますので、また070のところは現在、この4ページの表を見

ていただきますと、070-1~4、7~9は、実はあいてございまして、番号のつながりということもあれば、その利用者もわかりやすいということもございまして、現在、この070で携帯電話を使っていくというのが考え方の一つでございます。070を使うとなりますと、そこにPHSがあるわけでございますので、利用者の利便を考えると、その間、番号ポータビリティで、番号を変更せずに事業者を乗りかえられるということが、必ず利用者の利便に資するのではないかと考えているところでございます。今後、PHS自体がどうなるかということまでは、そこは別な議論かと思っております。

○山内部会長　よろしいですか。

ほかにいかがでしょうか。

高橋委員。

○高橋委員　070の番号についてなのですが、現在PHSの事業者が070同士の無料通話であるとか工夫して、事業者がフリーダイヤルとして使うようなサービスという形で知られているところがあると思うのですけれども、今度の検討に当たっては、これはそれぞれの事業者及び現在の利用者にとって、今の番号ポータビリティのようなメリットもある一方で、そういう、070同士だったら、今まで自由にできるという認識を持っていたものを変えなければいけないということがあるのですが、それはもう個々の事業者なり、消費者が気をつけるべきこととして考えてよいという考え方があるのかどうか、それを確認させてください。

○布施田番号企画室長　その点はまさしく、この諮問に基づいて、委員の方々にご検討いただきたいところでございます。確かに、ご指摘のとおり、070につきましては利用者が無料通信だと思っているイメージもございまして、また携帯電話のほうでも、各事業者それぞれ異なった料金プランがある中で使われている状況でございますので、その状況を全部踏まえまして、皆様方にご意見、ご審議いただけたらと考えております。

○山内部会長　よろしゅうございますか。

ほかにいかがでしょうか。

よろしゅうございますか。

それでは、本件につきましては、電気通信番号に係る制度の在り方に関する専門的な事項であります。したがって、電気通信番号政策委員会において調査・検討をいただきまして、その結果を当部会で審議し、答申をまとめることにしてはいかがかと思っておりますけれども、よろしゅうございますでしょうか。

ありがとうございます。よろしければ、その旨を決定することといたします。

## 閉 会

○山内部会長　それでは、以上で本日の会議を終了いたします。

次回の電気通信事業政策部会につきましては、別途決まり次第、事務局より連絡をしたいと思います。

以上で閉会といたします。どうもありがとうございました。